

## 編集後記

本号では、理化学研究所計算科学研究機構副機構長 宇川彰様から、『Alan TuringとBletchley Park』と題する巻頭言を頂きました。計算機が、第二次世界大戦で使用された電氣的機械に始まり、プログラム内蔵方式の電子計算機に至るまでを再現された当時の計算機の写真を交えてご紹介頂きました。記事には、日本原子力研究開発機構レーザー共同研究所の村松壽晴様より『レーザーコーティングプロセスの計算科学シミュレーションと加工条件の導出』という表題で、レーザー加工技術の分野で最新のシミュレーション研究について、当財団の荒木拓海様より『アクア・イノベーション拠点 (COI) -信州大学における、大規模シミュレーションを用いた革新的ロバスト炭素膜による水処理機構に関する研究の紹介』という表題で、さらに当財団の澤井秀朋様より『重力崩壊型超新星爆発における磁気回転不安定の大域シミュレーション』という表題で計算科学シミュレーションによる超新星爆発の解明について、研究報告を頂き刊行の運びになりましたことを、厚く御礼申し上げます。

さて、年の初めに今年の干支の丙申（ひのえさる）はどのような年になると予想されるかインターネットで調べてみました。丙申の2つの漢字ですが、丙は「明らか」という意味があり、申は「呻く（うめく）」の

意味が有ります。

十干は樹木の成長に例えられるようですが、丙はちょっと成長して形が明らかになってくる頃。申の呻くは果実が成熟して行って、固まって行く状態を表していません、完熟までは達しない状態のことです。

「形が明らかになってくる頃」、「実が固まっていく状態」とは、どのようなことなのか、前回の丙申、60年前の1956年（昭和31）年を遡ってみました。

この年の日本は、神武景気と言われ、経済は、戦前の水準を超えるまでに回復して、「もはや戦後ではない」と言われ、この言葉が流行語となりました。戦後の復興が改めて明確に示された年と言えるでしょう。例えば、国際的には、10月19日に日ソ共同宣言が発表され、12月18日に日本が国際連合に加盟しました。国内的には、9月1日に横浜市・名古屋市・京都市・大阪市・神戸市の5市が初の政令指定都市となりました。この5市は、もともと大都市でした。このように頑張りが形になって評価されて、これまで日の目を見なかったことが形となってあらわれた年と言えそうです。2016年も、今まで気づかなかったことに気づくとか、きっと新たにみえてくるものがあるはずで、積極的に行くべき年なのかもしれません。

(中村)